

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長
(公 印 省 略)

病害虫発生予察技術情報について
令和8年度病害虫発生予察技術情報第 4 号を公表したので送付します。
令和8年度病害虫発生予察技術情報第 4 号

パッションフルーツにおけるウイルス病の防除対策

令和7年 11 月、沖縄本島中部地域の施設栽培パッションフルーツにおいて、果実の奇形や着色不良が確認されました。その後、他地域でも同様な症状がみられたため、令和8年2月から6月にかけて沖縄本島 35 施設、離島5施設、計 40 施設にて現地調査を行いました。

沖縄県農業研究センターにて検査した結果、以下のとおり3種のウイルスが確認されました。

場所 (地区)	調査 施設数	ウイルス確認施設数		
		Potyvirus		Carlavirus
		EAPDV	PfVY	PLV
北部	15	6	2	12
中部	7	1	0	3
南部	13	0	1	9
宮古	2	0	0	0
八重山	3	0	1	0

現在、これらのウイルスが発病した後の有効な治療法はありません。そのため、健全な苗を育てることが最も重要です。また、被害の拡大を防ぐために、防除対策を徹底しましょう。

1 生態

(1) トケイソウ東アジア奇形ウイルス *East Asian Passiflora distortion virus* (EAPDV)

- ①アブラムシにより非永続的に伝搬される。
- ②症状として、葉の萎縮やモザイク、新葉の退緑斑紋(図1)ならびに果実に奇形や木質化(図2)を示し、収量や品質を低下させる(平成 29 年度病害虫発生予察特殊報第4号参照)。

(2) クサトケイソウウイルス Y *Passiflora foetida virus Y* (PfVY)

- ①アブラムシにより非永続的に伝搬される可能性がある。
- ②症状として、葉にモザイク(図3)と果実に輪紋(図4)を示し、収量や品質を低下させる。

(3) トケイソウ潜在ウイルス *Passiflora latent virus* (PLV)

- ①アブラムシにより非永続的に伝搬される。また汁液感染、接ぎ木感染する。
- ②症状として、開花～着果と株に負担がかかる時期になると、新芽の萎縮(図5)、葉のカールや黄化、葉脈間の黄化(図6)、葉面の亀裂などを示す(平成 29 年度病害虫発生予察技術情報第1号参照)。
- ③感染による果実の奇形は報告されていない。

2 防除対策上注意すべき事項

- (1) 感染株からは採苗しない。
- (2) 他系統を混植栽培している園では、せん定用具を分けるか、作業する株が変わる度に次亜塩素酸水溶液等で消毒する。
- (3) アブラムシの防除対策に努める。

- (4) 株に負担をかけないように、過剰なせん定や着果に注意する。
- (5) 株の生育が旺盛となるように施肥や灌水など肥培管理に注意する。
- (6) ウイルスフリー苗を挿し木増殖する際、防除等管理を徹底しないとウイルス感染の恐れがあるため注意する。
- (7) EAPDV 及び PfVY の発病株は、見つけ次第抜き取る。抜き取った株は園内に放置せず、ビニール袋に密閉するか、園地外で地中深くに埋設処分し、感染の拡大を防止する。



図1 葉の萎縮、新葉の退緑斑(EAPDV)



図2 果実の奇形・木質化(EAPDV)



図3 葉のモザイク (PfVY)



図4 果実の輪紋 (PfVY)



図5 新芽の萎縮 (PLV)



図6 葉脈間の黄化 (PLV)

★詳しくは県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★

TEL：(本所)098-886-3880、(宮古駐在)0980-73-2634、(八重山駐在)0980-82-4933

ホームページアドレス： <https://www.pref.okinawa.jp/shigoto/nogyo/1010700/index.h>

